

舞鶴の地域連携と文化遺産活用

井上奥本家文書・パンフレット・舞鶴幼稚園

京都府立大学文学部
歴史学科 准教授
東 昇

6年間の ACTR 調査

歴史学科では、2013年より現在まで6年間にわたって、舞鶴市において地域貢献型特別研究（ACTR）を継続している。これまで、古地図や街道、石造物をはじめ、各地区の祭礼・聞き取り調査を実施した。すでに調査成果の報告書として、文化遺産叢書 11『舞鶴地域の文化遺産と活用』（2016年3月）、12『「丹後の海」の歴史と文化』（2017年3月）、14『舞鶴・京丹後地域の文化遺産』（2018年3月）の3冊を3年連続で刊行している。2018年度は、舞鶴地方史研究会、京都府立東舞鶴高校、第16回全国藩校サミット舞鶴大会実行委員会、京丹後市教育委員会の提案を受け、ACTR「丹後地域の高大連携、世代間交流を核とした文化遺産活用」（研究代表東昇）として以下4つの事業を進めた。

「舞鶴地域の地域連携、世代間交流と文化遺産活用」報告会

まず第1に、この第I部では、これまでのACTRの調査・成果のなかで、地域連携、世代間交流を軸とした、地方自治体・博物館・高校・区・研究会など各種団体とともに実施してきた事例を紹介している。これらの内容は、2019年3月2日（土）、舞鶴市政記念館 ホール（舞鶴赤れんがパーク）で開催された、「地域貢献型特別研究（ACTR）成果報告会 in 舞鶴」（京都府立大学京都地域未来創造センター主催、舞鶴市、京都府、京都府教育委員会後援）における、つぎの各報告を基にしている（写真1）。

- 東 昇「舞鶴幼稚園資料の調査と活用」
- 松本 達也「舞鶴歴史文化基本構想の策定」
- 廣瀬 邦彦「東舞鶴高校と府立大学の連携」
- 小室 智子「舞鶴地方史研究会の活動」
- 新谷 一幸「世代を超えた連携と「多門院地区歴史探訪」への取組」
- 長嶺 睦「博物館の地域連携～世界記憶遺産登録によって生まれたもの～」



写真1 「地域貢献型特別研究（ACTR）成果報告会 in 舞鶴」チラシ

井上奥本家文書の調査・整理と活用

第2に、第Ⅱ部で紹介する井上奥本家文書の調査・整理、そして文書を活用した展示・授業に関する報告をまとめた。井上奥本家文書の鎮守府関連資料の展示について、小室智子氏に「舞鶴市郷土資料館出張展示「鎮守府と中舞鶴」として寄稿いただいた。また東舞鶴高校では、200年前の正月カレンダーを作るという第3回授業で「作方年中行事」を、授業のテキストとして利用した（口絵1.2）。この授業は廣瀬邦彦氏の報告と、ゼミ生であり母校京都学園高校の非常勤講師を勤める水野拓也君（文学研究科史学専攻博士前期課程1回生）の「東舞鶴高校における高大連携」に詳しい。廣瀬氏、水野君と3人で、毎回授業案を検討し、授業に臨ませていただいた。

井上奥本家文書の調査・整理では、舞鶴地方史研究会、舞鶴市郷土資料館と共同で作業を行った。詳しくは小室氏の報告に譲るが、年数回のゼミ生のみでの調査では、2年間という短期間で約3600点もの文書整理は不可能であった。またそれぞれの作業、蔵出し・ラベル貼りは舞鶴市郷土資料館との共同、目録は舞鶴地方史研究会、撮影はゼミ生と分担することにより、それぞれの興味関心、整理能力に応じた調査を実施することもできた。これは舞鶴地方史研究会が、菅原憲二元千葉大教授とともに長年にわたり文書整理に携わってきたこと、地域にとって文書整理、目録作成、資料翻刻の基礎作業が重要であるという、歴史研究の基本を十分に理解されているからだといえる。それは、研究誌『舞鶴地方史研究』や『舞鶴市史』という、自らの歴史を、自らの手で調べ、自らのために調査・研究してきた蓄積の結果ともいえる。このような民間の歴史研究団体の比較参考事例として、八幡市の研究会活動について、竹中友里代氏（京都府立大学特任講師）に寄稿いただいた。また舞鶴・八幡における大学との地域調査と成果公開については、東昇「近世石清水神人と文書—京都府八幡市地域の調査から—」（『日本史研究』678、2019）で概説している。

藩校サミットとパンフレット作成

第3に、これまでの成果をわかりやすく紹介するパンフレット制作（テーマ選定、文章やデザイン・レイアウト）を文化情報学ゼミ生とともに取り組んだ。「舞鶴の歴史アラカルト」（写真2・3）と題し、これまでの舞鶴幼稚園、堂奥・多門院・成生の文書・祭礼調査を紹介している。また日常の文書調査やゼミの活動、ブログ・ツイッターによる情報発信の様子も掲載した。各テーマは、田辺藩との関係を軸にしており、2018年9月29日（土）舞鶴市総合文化会館で開催された、第16回全国藩校サミット舞鶴大会で参加者約500人へ配布し、舞鶴の歴史、ゼミの活動を知っていただくよい機会となった。その後、10月21日両丹地方史研究者発表大会、10月22日京都府立東舞鶴高校での連携授業、先述した2019年3月2日の報告会等でも配布している。



写真2 「舞鶴の歴史アラカルト」表面



写真3 「舞鶴の歴史アラカルト」内面

舞鶴幼稚園の資料調査と活用

第4に、2013～2016年に調査を行った舞鶴幼稚園の資料調査と活用である。舞鶴幼稚園は、明治17年（1884）に開園し今年で135周年、京都府下では現存する幼稚園として最古、全国6番目に古い歴史を持つ。舞鶴幼稚園には、明治～昭和の園児教材や作品を中心とする資料があり、その整理を行った。2014年11月の130周年には記念事業として、幼稚園・同窓会とともに、記念誌『舞鶴幼稚園130年のあゆみ―受け継ぐ文化遺産―』を編集・刊行した。同時に記念講演を行い、ゼミ生は記念展示の準備、解説をしている。また2016年3月には、京都府立大学文化遺産叢書11集『舞鶴地域の文化遺産と活用』に、幼稚園資料の目録・解題・画像などを掲載し、全体像をあきらかにした。そのうち889点が、2017年1月舞鶴市指定文化財となった。幼稚園の所蔵資料が文化財になるのは、全国的にみても大変珍しいことである。その後、舞鶴幼稚園は、2018年度園舎が建て替えられ、2019年4月から舞鶴こども園と改称する予定である。

2018年10月、椋本有加理園長から園舎建て替えに関して展示スペースが作られる予定であり、そこに掲示する資料紹介パネルと配布するパンフレットの作成の依頼があった。そのため、「舞鶴の歴史アラカルト」を編集・デザインした実績のある、ゼミ生の濱本めぐみさん（文学部歴史学科3回生）に、A0パネル21枚とA3パンフレットの編集・デザインを依頼し、2019年2月に完成した（写真4.5）。

舞鶴幼稚園は、1896年の水害で記録類が失われ、1945年戦争の悪化により休園、数回の移転・建て替えを経験し、何度も資料散逸の危機にあった。しかしそのたびに、幼稚園の教職員や保護者、地域住民の努力により守られ、現在に継承されている。2019年4月舞鶴こども園と改称されるが、このように幼稚園資料を文化遺産として継承し、展示やパネル、パンフレットにより紹介、活用していくことにより、舞鶴幼稚園135年の歴史を後世に伝えていくことができる。これらは、舞鶴幼稚園の教職員・園児・保護者、地域の人々、舞鶴市・郷土資料館、府立大学の諸団体が連携協力して実施できたといえる。今後も連携を継続し、文化遺産として幼稚園資料を収集・保存・活用していくことが重要である。

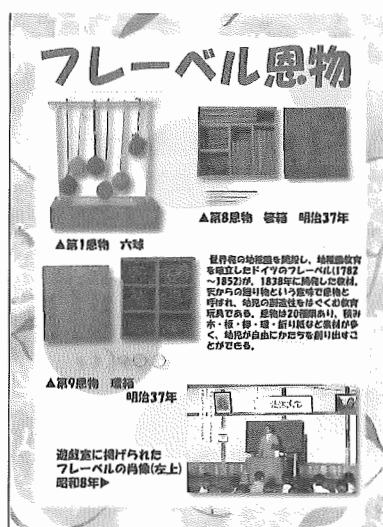


写真4 舞鶴幼稚園資料紹介パネル

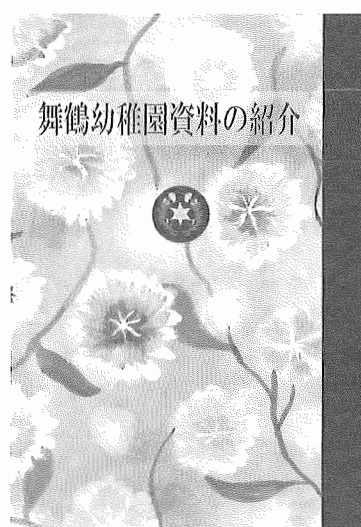


写真5 同 資料紹介パンフレット

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 「舞鶴の歴史アラカルト」パンフレット
- 2 文書蔵出し調査風景 東昇撮影
- 3 舞鶴地方史研究会との共同調査 東昇撮影
- 4 舞鶴クレインブリッジ 松岡秀雄氏撮影
- 5 東舞鶴高校での授業風景 廣瀬邦彦氏撮影

京都府立大学文化遺産叢書（2008～）

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山域の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究
- 14 舞鶴・京丹後地域の文化遺産
- 15 沖縄の宗教・葬送儀礼・戦没者慰霊



京都府立大学文化遺産叢書 第16集
舞鶴の地域連携と世代間交流
井上奥本家文書調査報告

編集 東 昇
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5
発行日 2019年3月30日
印刷